

メールマガジンアーカイブ

2010/5/21 井上さん、ついに投資家になる！！(11)

[メルマガアーカイブTOPに戻る](#)[リスクマネジメントラボラトリーのHPへ](#)

すぐにできる！Vol.24

忙しいドクターのための資産運用

～ 井上さん、ついに投資家になる！！(11)～

こんにちは、リスクマネジメント・ラボラトリー 代表の中澤です。

このシリーズでは積立投資についてRML社のスタッフの例を対談形式でお伝えしたいと思います。

38歳女性・RML社IT戦略室の井上が、将来の為に資産運用をどうすればよいか？（まったくの素人）相談を始めました。。



[前回のコラム「井上さん、ついに投資家になる！！\(10\)」バックナンバーへリンク](#)

井上さんの投資の現状(2010年3月末)

	累計投資額	現在の評価額	評価損益	評価損益率
2008年6月末	2,100,000	1,853,005	-246,995	-11.76%
2008年9月末	2,400,000	1,789,743	-610,257	-25.42%
2008年12月末	2,700,000	1,699,959	-1,000,041	-37.04%
2009年3月末	3,000,000	1,986,308	-1,013,692	-33.79%
2009年6月末	3,300,000	2,574,375	-725,625	-21.99%
2009年9月末	3,400,000	2,865,967	-534,033	-15.71%
2009年12月末	3,700,000	3,348,320	-351,680	-9.50%
2010年3月末	4,000,000	3,794,128	-250,872	-6.27%



日興での積立は7月までで停止
10月から楽天証券で10万円/月の積立再開

毎月の積立	2,300,000	2007年9月から2009年12月(毎月10万円)。累計投資月数26ヶ月。
2008年2月	600,000	毎月積立している4種類のファンドを追加購入。
2008年4月	500,000	数年で解約する可能性もある資金なので海外債券ファンドを購入。

2009年8月	2,947,818	日興で保有している分をすべて解約。 その分で楽天グローバルバランスファンドにシフト。
---------	-----------	---

- 後日 -

井上 こんなに戻ってきているんですか？！ 1年前の3月と比べると嘘のようですね。

中澤 6%強のマイナスですからほぼ元に戻ったと言っても問題ないでしょう。
1年前は永遠と不況が続くかのようなニュースやコメントが多かったですが、最近では随分



とトーンが変わりましたね。特に中国のような新興国ではバブル懸念まで出てきています。

井上 前回のミーティングで、値下がりして状況が悪いとき、大幅なマイナスの時に解約した人が多かったと聞きましたが私は本当に解約しなくてよかったと思います。

中澤 国際分散投資の価値はここにあります。
現在のように世界の経済がつながっているような状況では国際分散投資をすることでリスクが小さくなるかどうかについては疑問を持つ人も増えてきています。
ですが、今回の場合であれば不動産や高利回り債券などリーマンショックの影響を大きく受けた特定の資産に偏った形で投資をしていたとしたら継続して保有することはできなかったでしょう。
ましてや買い増しなどとてもできなかったと思います。
世界中の株式や債券などにバランスよく分散投資をすることで全てが値下がりし続ける心配がなくなります。
また、危機前によかった商品と回復期に良い商品とは異なることも多く、良いタイミングで上手に乗り換えることは困難です。その点、**国際分散投資なら時間さえ我慢すれば大丈夫です。**

井上 確かにそうですね。値下がりしている最中に投資信託を通じて保有している企業を確認しましたが、これらの企業がすべて破綻することはないと思いました。
また、経済の大きな仕組みについても理解できたので比較的安心していられたのだと思います。

中澤 一般に経済ニュースというのはとても短期的な出来事について報道されています。
例えば、〇〇という会社のこの4半期は〇%の増益、とか、昨日株価が下がったのは〇〇という理由だ、といったようなものです。勿論、こういったニュースも全て無視していいわけではありませんが長期投資というのはまったく別のものです。

良し悪しは別として人間は様々な欲求を持っています。
より便利になりたい、病を克服して健康で長生きしたい、より豊かになりたい、といった具合です。このような欲求を満たすのが企業です。企業は商品やサービスを提供することでこれに応えます。
この繰り返しは経済活動ですから、この仕組みが継続するのであれば基本的には経済の規模は拡大していくと仮定することができます。
この大きな波の中に景気の良し悪しや需給関係による値動きのような小さな波が含まれているわけです。

井上 確かにそうですね。携帯電話などに身近なものもどんどん進歩してますよね。

中澤 日本で携帯電話が世に出たのは1989年です。その時は自動車電話といっていました、重さは640グラムだったといわれています。その後携帯電話はどんどん軽くなり57グラムまでなりました。
これは、持ち運ぶことに対してより便利にという欲求です。通話だけでは飽き足らなくなりメールができるようになり白黒からカラーになりました。
今ではインターネットにもつながるようになりほとんどパソコンと同じような作業ができるiphoneなどのスマートフォンも一般的になっています。ちなみにiphoneの重さは135グラムで通話だけのときの2倍の重さです。
人の欲求は重さ(軽さ)から違うものに移ってきたようです。



井上 本当ですね。より軽く、より便利にという歴史ですね。そのように考えると人々の欲求に今後応えるのはどの企業かを考えることが大切なですね。

中澤 そのとおりです。ただし、5年後、10年後にどうなるかは明確にはわからないのでこの仕組みそのものに投資をするというのが国際分散投資の原点です。

井上 そのほかに国際分散投資のメリットはありますか？

中澤 メリットといえるかどうかわかりませんがやはり日本の状況は無視できないと思います。
低金利、年金不安、出口の見えないデフレ・不況、人口減少、財政赤字などネガティブな要素が盛りだくさんです。勿論個別の企業では世界に誇る技術を持っているところも沢山ありますが全体としての経済力は世界の中で低下傾向にあると考えて間違いないでしょう。
国際分散投資をすることで日本以外の地域の成長力を少なくとも自分自身の資産形成に生かすことができます。

井上 今年中に世界第2位の経済大国の座は中国に譲るというニュースも見ました。テレビで秋葉原で買い物をしている中国観光客の番組を見ましたがすごい購買力ですね。

中澤 買っているのは家電だけではなくありません。日本の精密技術の基礎になっている金型ですが、金型大手のうちの1工場は中国の自動車メーカーに買収されました。
いままでは日本の技術は特別なので他のアジア諸国ではマネできない、と思われてきましたが技術者込み

で会社ごと、工場ごと買収されては手の打ちようがありません。
ちなみに秋葉原で中国観光客が訪れる家電量販店も中国資本が日本の家電量販店を買収したものです。
ただ、これは中国に限ったことではありません。80年代のバブル期には日本の資本も世界中で様々な企業や不動産を購入したことはよく知られています。

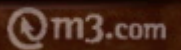
井上 色々な意味で日本を魅力的にして活力があり、将来に希望が持てる方向性を作っていくのが政府（政治）の役割なのにちょっと心もとないですね。となると自分の老後ぐらいは自助努力で安心できるものにするためにも国際分散投資が必要ですね。

このコラムは2010年4月23日に行われた面談をもとに書かれています。

 積立投資について、相談したい

是非、コンシェルジュにご相談ください！

[▲ PAGE TOP](#)

 m3.com

Copyright 2013 RML All Rights Reserved.